

新潟大学 地域に根をはる国際保健の実践を目指して



新潟大学大学院 医歯学総合研究科 特任教授
十日町いきいきエイジング講座

菖蒲川 由郷

2002年新潟大学医学部卒業。2008年医学博士。米国留学を経て2011年新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健学部分野助教。2014年同分野准教授。2019年より現職。

十日町 いきいきエイジング講座

私たちの講座（十日町いきいきエイジング講座）は名前の通り、新潟県十日町市の寄附により2019年10月に新潟大学に開設した寄附講座です。人口減少と高齢化が進む十日町市の「出向くケアと医療」の仕組みづくりを主な目的としていますが、十日町市のみならず、国内外で数々の調査研究を展開しています。新潟大学（新潟市）と十日町市医療福祉総合センター（十日町市）の2カ所に拠点を置き、十日町市の行政と連携し、公衆衛生の研究と実践を同時に進めることができる環境にあります。

現場重視の研究活動 ～国際保健活動の実践～

私たちの国際保健活動は研究活動を通してつながりの中で、目の前の課題を解決するための調査・研究を現場の視点で現場とともに着実に進めることにその本質があると考えています。

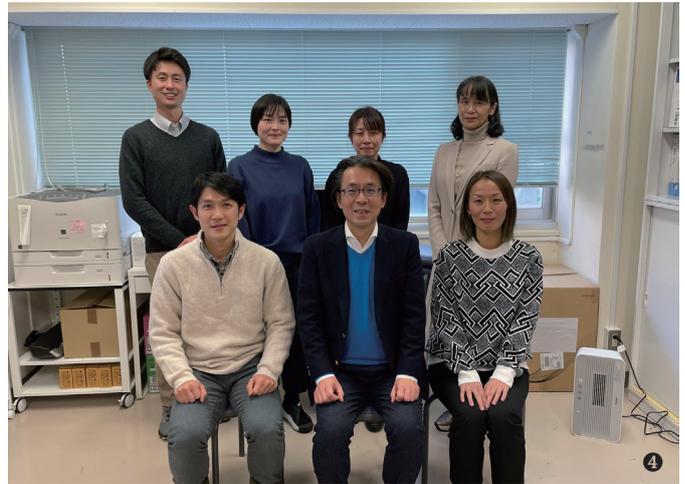
現在、私たちの国際保健活動の中心はミャンマーやマレーシアといったASEAN諸国における将来の急速な高齢化に備えるための高齢者社会疫学調査の展開です。JAGES（日本老年学的評価研究、代表 千葉大学・近藤克則教授）の健康とくらしの調査（高齢者アンケート調査）をASEAN諸国に応用する試みで、2018年にミャンマーの高齢者1200名のコホートを立ち上げて追跡中です。マレーシアでは2019年にセラングール

州で調査を実施し、サバ州、ペラ州へとフィールドを拡大しています。調査を実施してデータを収集するだけであれば単なる研究活動で終わってしまいますが、私たちは、得られたデータや分析結果が、いかに現場の保健活動や未来の政策決定に役立つかを重視し、現場の声に耳を傾けようと努めています。2019年1月にミャンマーで実施した見える化ツールによる現地スタッフの研修会はその一例です（写真1）。調査データは、学内のみならず学外の研究機関とも連携して、分析し、国際誌への発表も精力的に進めています。一次データを収集しているため、労力は大きいですが、活用できるデータは数多くあります。調査票の設計から始める機会もあり、目的が合致すれば、リサーチクエストを実際の調査で検証することもできます。

また、調査や研究活動をそれだけで終わらせるのではなく、ASEAN諸国の研究者や地方行政官等を招いて、アジアの高齢化の現状と解決策を話し合う国際会議の機会を設けています。この会議では、これから急速な高齢化が見込まれる東南アジア諸国の研究者や行政官とグローバルな視点で協議することができ、国際保健の現場ではどのような研究が求められているかを肌で知ることができます。さらにこのような国際会議は、国際的な交流の場ともなり、これまでも新たな国際共同調査・研究のスタートの機会ともなってきました。要望があれば東南アジアからの研修も受け入れており、最近では

高齢者の移動（Mobility）に関する研修を受け入れました（写真2）。このような中で海外の研究者との友情も育まれ、本音で語り合うことで、真の国際交流が進み、お互いの理解のもとで有意義かつ効果的な国際共同研究が実現するのではないかと考えています。

私たちは、新潟県内でも高齢者コホート研究を進めています。JAGES調査として2013年から追跡しているコホート（十日町市、新潟市）の他に、十日町市では小規模ですが対面調査のNEIGE study（NEIGEはフランス語で“雪”、Neuron to Environmental Impact across Generationsの略）があります。対面の利点を生かして、質問票だけでなく、握力、歩行速度、体幹バランス、認知機能検査（MMSE-J）、頭部MRI検査等を継続しています（写真3）。詳細なデータを元に次々と研究結果が国際誌に掲載されています。この他にも、新潟県と協働で、高齢者の補聴器使用とQOLに関するコホート調査を実施中です。また、「高速データ通信とAI技術による豪雪中山間地における新しい健康づくりのためのシナリオ創出」をJST社会技術開発センターのプロジェクトとして十日町市と協働で企業の技術提供を受けながら進めています。これらの国内研究は、どれも、国際展開の可能性があります。高齢化と担い手不足が進む中、特にデジタル化により高齢者の健康とWell-beingを改善してゆけることには希望があります。



①見える化ツールを使ったワークショップの様子（ミャンマー）②高齢者の移動に関する研修での記念の1枚 ③十日町市コホート調査の様子 ④ゼミでの集合写真

謙虚に学ぶこと

Think globally, act locally とは、国際保健活動でもよく使われるフレーズです。現場で直面するどうしようもない問題や、現場の雰囲気、その背後にある文化社会的背景は、そこに行って、触れて、感じてみなければ分からないものです。ローカルで活動する中で、感じること、目の前で起きている事実が、物事の本質を含んでいて、そのままグローバルに通じるのです。地に足をつけた研究だからこそ数字の向こうにある本質に迫ることができる、とも言えるのではないのでしょうか。

私たちの講座では、前述の通り、国内外に複数の追跡中のコホートがあり、これらのデータを用いて分析をすることができます。さらに、分析結果を現場にフィードバックすることで、現場で役立つ分析かどうかを確かめながら進めること

を目指しています。コホートは本講座のスタッフのみならず、複数の研究機関と連携してネットワーク型で進めています。データを使った分析を希望する場合、研究者ネットワークに入ってもらい、皆の了解と合意の元で研究を進めることができます。学びの場としては、それぞれの興味ある分野で分析を進め、講座内では定期的にゼミを開催しています。研究者同士で研究内容を検討したり、技術的な話題を持ち寄って、謙虚に学ぶことで、お互いを高める機会となっています。他の研究機関との意見交換や研究成果の発表も不定期に行っており、ここにフィールドの行政官や現場担当者が入ることもあり、研究の社会的意義を深めるきっかけとなっています。

最後に

ここまで講座の紹介をしてきましたが、私たちは寄附講座のため、大学院生が直

接所属できる形にはなっていません。しかし、上述のように研究課題・データは数多くあります。国際保健を身近に感じ、学ぶことができる環境があります。整ったコースがあるわけではありませんが、目的が明確であれば、お手伝いできることがあるかもしれません。他の大学・研究機関に所属しながら、または客員研究員や特別研究学生として一緒に研究を進めてくれる方を募集しています。

また、研究活動のみならず、現実社会での実践として、すでに高齢化率40%超、担い手不足が急速に進む十日町地域の医療と介護の連携を目的とした（一般社団法人）妻有地域メディカル&ケアネットワークを2023年7月に設立しました。グローバルに考えて、共にローカルでの実践を進める仲間を募集しています（写真4）。

ともに、地域に根をはる国際保健の実践を目指しましょう！